

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991400029		
法人名	社会福祉法人 蓬愛会		
事業所名	城下庵		
所在地	栃木県さくら市喜連川3609		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町村受理日	平成24年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歴史ある城下町の中心部に位置し街並みの景観にもとけ込む建物である。利用者はもちろん地域の皆様にも違和感なく出入りできる環境整備に努めている。
同じ喜連川に同一法人の特別養護老人ホームや居宅介護支援事業所もあるため、多様なサービスの提供と共に、地域に根ざした福祉の発展に努めている。法人の理念でもある、今日の一・一日を楽しく安らぎのある毎日とするを念頭に、笑顔が多く見られる環境作り、また、グループホームならではの特徴を生かし、日常生活機能が落ちてきても在宅の生活が長く送れるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは、歴史豊かな城下街喜連川の市街地に位置し、商店やスーパー、道の駅なども近く住み易い環境にある。小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、自由に交流が出来る、設備も相互利用が出来る。玄関前の駐車スペースを利用した夏祭りを計画し、近隣の人に参加呼びかけたり、地域の秋祭りに入居者と職員で参加したり、地域との交流にも努めている。ボランティアの積極的な受け入れも入居者の楽しみになっている。管理者と職員の意思疎通も良く、入居者は無理のない自由な時間の中で食事を楽しんだり、ゆったりと過ごせている。毎月の職員会議には全職員が出席して協議・勉強するなど、ホーム全体で入居者が生活にゆとりと楽しみを持ち、生きがいが持てるよう支援しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念として「生活にゆとりと楽しみ、生きがいがある」との理念で取り組んでいる。又、法人の理念として出合いを大切に、今日の一日を楽しく安らぎある毎日とする、を日々の申し送りで確認をしている。又、施設内研修にて理念についての理解を深め共有を図っている。	法人の理念に加え、「生活にゆとりと楽しみ、生きがいがある」という、職員全員で考えて作ったホーム独自の理念を毎日の申し送りの時に確認をし、共有と実践に繋げている。今後、さらに研修を重ね理念の見直しを考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に参加し日常的なつながりが持てるようにしている。自治会に加入し回覧板等のやり取りもある。又、施設行事の際に近所への声かけや参加の呼びかけをした。	民家や商店が隣接しており、近所の人からお花や未使用のオムツ等の差し入れなどもある。地域の花火大会や軽トラック市・秋祭りが開かれ、利用者も参加している。また、夏祭りの開催時には法人で持っている屋台を利用し、近所に声かけするなどして地域との交流に努めている。	交流の積み重ねで近隣の理解が徐々に深まっている様子が伺えるが、運営推進会議や回覧板なども活用しながら地域の中の事業所として地域の人と日常的な交流がさらに深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や見学等をおし、どのような認知症の高齢者がいるのか、どんな対応が大切なのかをアピールし、運営推進会議においても近隣の方と共に認知症についての取組を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、事業所の活動報告、行事、現状の話題や問題点などについて話し合いを行っている。そこでの意見等を事業運営に反映するようにしている。又、地元の警察官に参加を依頼し、身近でおきている事件や防犯について話を聞いた。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、民生委員・近隣者・区長・利用者家族・駐在所・市役所職員・地域包括支援センター職員・事業所職員が参加し、活動報告や行事報告、出席者からの意見がだされ運営に活かしている。また、議題に応じ消防署や近くの医師も参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関することや、運営、利用者の方で発生した事由についてもその都度連絡をとり協議している。また、運営推進会議にも参加している。	市担当職員が毎回運営推進会議に参加しており、状況を把握している。また、介護認定の確認などで職員が出向いた際などには情報の提供もある。ホームからも利用者の状況や運営状況等について常に連絡を取り合うなど良い協力関係が成り立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアは法人の理念でもある。身体拘束による問題、弊害等施設内外の研修にて周知をはかっている。又、グループホームにおいてはどのようなことが起きやすいのか等の理解を深めるよう努めている。	職員は月1回内部・外部の研修会に参加しており、身体拘束をしないケアを理解し共有と実践に努めている。日中玄関は施錠せず、職員が見守りケアに取り組んでいるが、ホームの玄関前は車の激しい通りとなっているため、家族の理解を得てセンサーが設置されている。	

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを作成し、マニュアルに基づいて、日頃の利用者の表情や仕草、全身状況の観察に気を配っている。言葉使いによっても虐待になることを理解し研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方はいないが、必要性がある時には地域包括支援センター等と連携し利用に繋げていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に事業所として出来ること、出来ないこと、また家族の考えや疑問点等十分理解した上で契約を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の方も参加して頂き意見や報告をおこなう。又、担当者会議や面会、家族への手紙等のことで家族からの意見、要望を周知している。	運営推進会議での家族代表からの意見や面会時の他、毎月の手紙や雰囲気から要望を把握している。また、保護者会が開かれた際に出された意見なども含めて、様々な場面で出された意見を運営に反映させている。さらに、所内の壁面に職員の顔写真を掲示したり名札も大きな平仮名にするなどして、本人や家族が気軽に話せる雰囲気作りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行われているミーティングに管理者、介護支援専門員、看護職員、介護職員が参加し利用者のサービスに関すること、運営等の確認を行っている。また、施設内研修、個別の面接等を行い質の向上に努めている。	管理者と職員は話しやすい関係にあり、毎日のミーティングや毎月15日に開催される職員会議は全職員が出席し、献立・ノロウイルスの対応・洗濯物の対応などの協議・研修がされており、記録は輪番でしている。常日頃から職員の意欲と意見・提案をもとに、運営と質向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生、親睦会活動の充実を図り又、各種の研修会・勉強会等の参加を行っている。就業等に関する事由についてはその都度話し合いを行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修等への参加を積極的に行う。また、事業計画において新人、新任、現任とレベルに合わせた研修を行いケアの向上を図っている。月1回事業所内の研修や事業所外の研修も取り入れる。		

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	栃木県老人福祉施設協議会や、さくら市内でのケアマネ連絡協議会への参加による情報交換を行っている。研修等に参加し他事業所との交流や意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設を見学して頂き、生活の場を見ていただきます。利用者の意向や要望については十分に話し合う時間をつくり利用につなげている。本人や家族の不安や悩みを受け止め本人の声に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の立場に立って、利用者の意向や要望を踏まえつつ家族の不安や求めている事を受け入れ安心できる生活の支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の状態や要望を理解し施設での生活が適しているのかを見極め、他サービスの利用が適している場合には、包括や他事業所へ相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性が発揮できる環境作りをし、本人のできる事に配慮しながら調理(漬物・お饅頭作り)や畑作業、生活文化等を入居者から教えてもらう事も多くあり、日々の生活での役割を共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子を電話で連絡したり、面会時に日頃の状況を伝えている。また、利用者・家族・施設との話し合いの中でこれまでの家族間の関係を踏まえつつ、家族が対応する事を本人が望んでいる場合には家族に協力していただくように依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の知人や友人の方が面会に来られた時には、別の場所を提供するなど、今までの付き合いを維持できるようにしている。行事外出では利用者の希望を取り入れながら、馴染みのある場所へいけるように計画をしている。	知人・友人がこまめに尋ねてきているので、継続できるよう支援している。ドライブで本人の生まれた場所や秋祭り等、希望する場所に出かけている。また、行き付けの美容院に行ったり、来て貰ったりするなどして、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の状況や様子を理解し、利用者が孤立しないよう席の配慮を行っている。トラブルの際には職員が速やかに間に入り、認知症があっても孤立しないよう共に支え合える環境づくりが出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後においても、相談や支援に応じる姿勢を示しながらその後の様子を確認するよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から今までの生活歴や自宅での様子を聞き、言葉にしづらい思いを日々の行動や表情から汲み取り、要望に応じた過ごし方が出来るよう、本人の視点に立っていつまでもその人らしい生活ができるよう支援している。	職員は、日々の話し方やしぐさ・顔色から入居者一人ひとりの思いの把握に努めている。困難なときは生活歴や家族からの意見、家までのドライブを試みるなどして、思いや意向を把握するよう努め、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接には時間をかけ情報収集に努めている。初回アセスメントで把握しきれない生活歴等を日常生活の会話の中から情報収集し、入居後もこれまでの習慣が継続できるようケアプランに取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握のために些細な事柄や経過記録、日誌等を参考にしている。一日のスケジュールについては細かく定めず、本人の希望等を受け入れるようにしている。その一つを受け入れることにより能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の面接には時間をかけ情報収集に努め、個人記録や申し送り等にて日々の変化に対応し、また家族の面会時にも意見を聞き入居者主体の暮らしを反映したケアプランを作成している。設定期間や新たな要望や状況の変化に応じ家族とも相談しながらケアプランの見直しをしている。	入居時に入居前の情報を収集し、入居後は本人の希望や状態を踏まえると同時に、面会時や担当者会議で家族の意見や要望を聞いて、3ヶ月に1回のモニタリングと6ヶ月ごとの見直しを行っている。また、本人の状況変化に応じて、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを具体的に個別記録に記入し、より良いケアにむけて職員同士が情報を共有していく事で介護計画の見直しに活かしている。		

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個人の希望や今まで続けてきた地域のサークル活動への支援等、可能な限り柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の中には以前から継続している地域のサークル活動に参加されている方もいる。そのような活動が継続できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認している。必要に応じて家族に協力を得ながら適切な医療が得られるよう配慮している。また、必要に応じて、バイタル記録など提供している。緊急時については、家族とも相談し協力医療機関へ受診してもらうこともある。	家族の協力を得て、入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。また、本人の日々の変化を記した用紙を家族に渡し、主治医との連携が図れるように配慮している。なお、緊急時には家族と相談の上、職員が同行し協力医療機関や近くの医院に受診している。認定更新時にも職員が一緒に付き添いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、利用者の健康状態の把握に努め、状態変化や異常に早期発見できるよう介護職員とも関係を密にとっている。状況により家族や主治医との連携を図りながら健康管理に努めている。また、オンコール体制により連絡を取りやすい体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係性を構築している	入院者が出た時には、時期をみて面会に行き、状況の確認及びストレス軽減が図れるよう支援する。家族・医療機関と連携を図り、早期治療・退院に向けて支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を確認し、本人にとってどうあったら良いかを段階ごとに家族・医師と連携をとり、対応方針の共有を図っていく。 また、事業所が対応しうる最大の支援方法を職員全体で検討し家族や医療機関と連携を図りながらチームで支援する。	今までに看取の実績はないが、重度化・終末期に向けた方針は事業所内で出来ており、入居時に説明をしている。本人・家族の意向に沿えるよう段階に応じて医師にも相談しながら、出来る限りの支援をしようと考えて取り組んでいる。	

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に備えてマニュアルを作成し定期的に訓練を行い周知している。また、急変時の対応方法については、掲示し家族や見学者などにも説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策にはマニュアルを作成し利用者一人ひとりの状態を踏まえて、具体的な避難対策を日頃から話し合い定期的に避難訓練を行なっている。また、3/11の地震を踏まえ地震発生時のマニュアルを作成し訓練を実施している。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と消防署員、利用者参加のもと、年1回、総合訓練を実施している。また、毎月第3木曜日には利用者も避難グッズを背負い職員と一緒に夜間想定避難訓練に参加している。職員はいつでも対応できる態勢になっている。備蓄は3日分を保有している。東日本大震災時には近隣からの声かけもあった。	一昨年は地域の人にも訓練に参加してもらったとのこと。利用者・職員が毎月の避難訓練を行っていることは評価するが、さらに万全を期し地域を巻き込んでの避難訓練や防災対策の実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関するマニュアル作成し、利用者やその家族のプライバシーの保護に努め記録等の個人情報においても事務所内に適切に保管されている。	利用者一人ひとりの呼び名は「さん」付けで呼んでいる。人権・プライバシーの保護についてはホーム内の研修を通じて確認をし、職員も共有に努めている。日々の声かけにも大小のニュアンスなどに心がけている。書類等は適切に事務所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が主体となり、その日の過ごし方を選択できるようレクリエーションでの表情など観察し、より理解するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい過ごし方を利用者と一緒に見出し個々なあった支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時には、今日はどの洋服を着たいか選んで頂き、又美容室への送迎も希望に応じ行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや準備に携わって頂いている。食事の準備に携わって頂くことや、家で使用していた食器を使って頂くことで落ち着いた、より楽しい食事ができるように支援している。	食事の準備は、野菜の皮むきなどの下ごしらえや、時には漬物作りを職員が教えて貰うなど、入居者と職員が一体となって楽しみながら行っている。また、入居者と職員と一緒に雑談を交えながら和やかに食事をしており、入居者の中には、自宅で使用していたランチョンマットを使っている人もいた。献立は職員が考えているが、月1回は利用者の希望により赤飯やきんぴらなどを取り入れた献立で、食事を楽しむ工夫をしている。なお、献立は法人の栄養士の協力のもと確認を得ている。	

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態に応じた食事を提供しバランス良く摂取できるよう献立にも気を配っている。既往歴や病状により水分、食事量を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声かけ、介助を行い個々の状態に応じた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をもとに、排泄パターンを把握し個々にあった誘導、声かけ、介助を支援している。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者個々の状況に合ったさり気ない声かけ誘導により、自立に向けた支援をしている。また、各居室にトイレが設置してあることから、日中は殆どの人はオムツを使用していない。車椅子の人は小規模多機能のトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を記録し水分摂取量がどのように便秘対策に有効か分析をする。水分制限のある方は繊維質の多い野菜を取入れるなど自然排泄に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家庭生活の延長であることから夜間入浴を中心に実施している。一人ひとりの生活習慣を重んじ個浴にて個別対応をしている。	家での生活習慣を大切にするという方針のもと、入浴は夕食後の19時～21時の間に職員2人で支援をしている。入居者からは気持ちよくゆったりとした気分で身体が温まると喜ばれ、安眠に繋がっている。希望がある場合や体調によっては看護師がいる日中の入浴を行っており、個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活リズムを把握し日々の状況に応じて休憩して頂いたり夜間入浴により良眠されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや、誤薬生じないよう服薬確認チェック表や個々独自の薬袋を用意し、服薬の管理、状態の変化に注意している。		

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中に趣味や得意なことなど披露できる機会を設け、張り合いのある日々を過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に地域の踊りの会等に所属し稽古がある時には準備、送迎等の支援をしている。また、本人の希望にそって外食や花見、散歩、ドライブ等を行っている。	希望に応じて外食やドライブ、スーパーへの買い物等に出掛けている。また、近くの神社参りの散歩には何気ない見守り支援をしている。入居者の中には地域の踊りの会に所属し月2回稽古に出るため、送迎支援をしている方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況や希望に応じて家族の確認を取りながら買物等お金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が自ら連絡を取りたい場合にはいつでも連絡ができるように対応し、プライバシーにも配慮し居室でも電話が使える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を保ちながら落ち着いた空間で過ごして頂けるよう建物内の雰囲気、季節の花、照明、壁飾りなどに配慮している。建物全体が古民家風の木造作りで落ち着ける雰囲気である。	共用空間は古民家風の天井になっており、梁からは温もりのある照明が下がり緩やかさを醸し出している。季節の花や法人の歌が掲示してあり窓際にはソファが置かれてある。五感を刺激することもなく各所に温湿度計が置かれリビング入り口にはノロウィルス発生予防の加湿器が設置されるなど予防管理がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においては椅子やテーブルの他にソファを置いたり、又、和室がありそれぞれ過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や置物、好みのものを持ってきて頂きおちついた雰囲気の中で生活できるよう家族や本人に説明している。	各居室にはトイレが設置されており、自動照明や温度計がついている。家具や置物・写真・仏壇等も持ち込まれ、掃除は職員が、季節の衣類の入れ替えは職員または家族が行うなど、本人が安心して居心地良く過ごせるよう工夫支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能にあわせ浴室、トイレなど多様な内容に対応できるよう心がけています。		